

「生物と気象」原稿作成要領（原稿種別(1)～(3)用）

1. 本文

1.1 構成

原著論文は、一般的には以下のような構成を持つ。ただし、研究内容により、「はじめに」から「謝辞」までが以下の構成をとれない場合は、最も適切と考えられる構成をとること。

研究論文：表紙，英文要旨，英文キーワード，和文キーワード，はじめに(または，目的，緒言)，方法(または，材料および方法，実験方法)，結果(または，結果および考察)，考察，結論，摘要(または，まとめ)，謝辞(もしあれば)，引用文献。

短報：研究論文に準ずるが，ページ制限を考えて簡潔にまとめる。

1.2 表紙

表紙は，別ページとし，和文表題，和文著者名，和文所属，英文表題，英文著者名，英文所属を記入する。著者が複数の場合には，編集上の代表著者(Corresponding Author)についても明記する。その際，代表著者名の右肩にはアスタリスク(*)を付けること。

連報形式の表題(例：トマトの光合成に関する研究第1報 光強度について)は認めない。所属と住所は，国内および海外からの郵便物が確実に届くように郵便番号や番地を含めて記載する。単著の場合には著者本人の，また共著の場合には編集上の代表著者の e-mail アドレスを住所と並べて明記すること。

1.3 要旨

英文による Abstract を書く。一読して論文の内容が的確に把握できるように，研究の目的，材料，方法，結果，結論などの概要を簡潔かつ具体的に記述する。文章の長さは 300 語(研究論文)または 200 語(短報)以内におさめること。

1.4 キーワード

英文・和文とも 5 語以内とし，要旨の後に改行して付ける。

1.5 原稿の作成

和文原稿は，A4 サイズを縦長に用い，上下 25mm 左右 30mm 程度の余白を取り，35 文字／行，40 行／ページで，横書きに印字する。原稿 2 ページで，ほぼ刷り上り 1 ページ(26 文字×54 行

×2 段=2808 字)に相当する。原稿左端に行番号を記入し，右上端等にページ番号を記入すること。なお，文字の大きさは 11～12 ポイント程度が望ましい。

句読点は全角の「，」と「。」を用いる。コロン「：」やセミコロン「；」，スペースなどの区切りも基本的には全角を用いる。ただし，引用文献リストおよび本文中での文献引用の際は，区切りに半角の句読点やスペースを用いる(日本語文献も同様)。また，英語文中の区切り(英語名称など)にも半角を用いる。

1.6 見出し

本文は節に分け，節のタイトルには番号とピリオドをつけ(例：「2. 材料および方法」)センタリングする。節の中の小節のタイトルには節の番号に加えてピリオドと番号を付け(例：「2.1 測定方法」)左詰めとする。ただし，「謝辞」と「引用文献」には番号を付けずセンタリングする。

1.7 数式

数式は，本文中で引用するために右端に原稿全体にわたっての通し番号をつける(例： $F=mg$ (1))。原則としてスカラーは斜字体及びギリシャ文字にて記述する。演算子や関数には正字体を用いる(例： \max , \min , \sin , \cos , \exp)。複数文字で単一のスカラーを表す場合は(例 LAI , VPD , GPP)，スカラーの積と区別するため明確に定義すること。ベクトルは，太字の正字体(例： \mathbf{v})あるいは上部に矢印を配した斜字体(例： \vec{v})によって記述する。行列は斜字体の大文字で表し(例： A , O)，本文中の数式は， a/b , $\exp(a/b)$ のように書く。数字は正字体で記載する。

1.8 単位

単位は SI 単位を原則とする。ただし，非 SI 単位での表現が妥当であることが明らかな場合はこの限りではない(例：分，時，日，リットル，トン)。

単位の表現は単位名(例：メートル，パスカル，分)ではなく単位記号(例： m , Pa , min)で行う。単位記号はイタリックや複数形にせず，ピリオドを付けない。

10 の整数乗倍を構成するための接頭語(M, k,

m, n など)は接続する単位記号と一体となったものとして扱う(例: $1\text{ cm}^3=10^{-6}\text{ m}^3$)。1つの組立単位中に2つ以上の接頭語を用いてはならない(例: 「10mS/cm」とせず、「1S/m」とする)。ただし、SIの基本単位であるkgが分母にある場合は接頭語の「k」は接頭語として考えない。

組立単位が2つ以上の単位の積で構成される場合には、一般的に中グロ「・」をはさんで書かれるが(例: N・m)、誤解の恐れがない場合は中グロを省略することもできる(例: m s^{-1})。

組立単位が1つの単位を他の単位で除して構成される場合には斜線または負の累乗のどちらかを選んで統一的に使用する(例: kg/s , kg s^{-1})。斜線を用いる場合、分母が複数の単位で構成されるときは「 $\text{kg}/(\text{s}^3\text{A})$ 」のように括弧を用いる。詳しくは、「国際単位系(SI)による物理量の表示」(蔵田, 農業気象, 42(2), 145-147, 1986)を参照のこと。

1.9 用語

学術・専門用語は、原則として農業気象学用語集 や新編農業気象学用語解説集(いずれも日本農業気象学会編)に準じる。

2. 図・写真・表

2.1 作成

図は、本文に続けて A4 サイズの用紙に描画する。向きは問わない。印刷時の縮小率を考えて、刷り上がりが必要な線は 0.8 ポイント程度の太さ、文字は 9 ポイント程度の大きさとなるように描くことが望ましい。なお、図の刷り上りサイズ(横幅)は、約 8 cm(1 段分) または約 17 cm(2 段分)となる。

表は、図に続けて A4 サイズの用紙に、なるべく 1 行の文字数を 80 文字以下(英数 文字でスペースを含む)にとどめるよう配置する。縦罫線は使用しない。

図や表の中の文や単語は和文または英文より使用言語を選択し、論文中ではそれを統一的に使用する。それぞれのページに、図(写真も含む)と表のそれぞれについて、使用言語が英文の場合には「Fig. 1」、「Table 1」また和文の場合には「図 1」、「表 1」から通し番号をつけ、図表中の使用言語は対応する説明文と揃えること。

2.2 説明文および引用

図・表・写真の説明文は和文または英文で作成し、図・写真の場合はそれぞれの下部に、また表

の場合にはそれぞれの上部に記す。図と写真には「図 1」または「Fig. 1」から通し番号をつける。表には「表 1」または「Table 1」から通し番号をつける。英文の説明文のうち、図と写真は「Fig. 1. Effect of···plants.」などとし、表は「Table 1. Effect of···plants.」などとする。和文の説明文では「図 1. ……の効果.」、「表 1. ……の影響.」などとする。説明文は、図表本体で用いた使用言語に揃えること。本文中の引用は、「Fig. 1によれば」、「表 3に示される」などとし、本文中に図や表の説明文を挿入しない。

3. 引用文献

3.1 書式

引用文献は、日本語のものは和文で、それ以外の言語によるものは英文を用いて、著者、年：題名、誌名、巻、ページの順に書く。巻数はボールド(太字)とする。欧文雑誌や単行本の書名はイタリック(斜字体)とする。

英文の場合、著者名や編集者名は、「姓[半角スペース]名のイニシャル.」とする。複数の場合、「著者 A, 著者 B」、「著者 A, 著者 B, 著者 C」などとする。和文の場合、複数の著者名を付記する場合には、中グロ「・」でつなぐ。編集者のある書籍の一部を引用する場合は、その部分を執筆担当した著者名で引用すること。雑誌名は省略せずに正式名称を記す。それぞれの引用文献は、以下の例にしたがって書く。

a. 論文：

Author A, Author B, Author CD, 2016: Title of article. *Journal of Agricultural Meteorology* **55**, 5–30.

著者 A・著者 B・著者 C, 2016: タイトル. 雑誌名 **55**, 5-30.

b. 書籍：

Author A, 2016: *Title of book*. Publisher, City, 総ページ pp. または, Author A, 2016: *Title of book*. Publisher, City, pp. 123-355.

著者 A, 2016: 書籍名. 出版社, 都市, 総ページ pp.

c. 書籍の一章など：

Author A, 2016: Title of chapter. In *Title of book* (ed. by Editor B). Publisher, City, pp. 123–355.

著者 A・著者 B, 2016: タイトル. 書籍名 (編者 B 編). 出版社, 都市, pp. 123-355.

d. 編集者をもつ書籍全体：

Editor A (ed.), 1999: *Title of book*. Publisher, City, 総ページ pp.

e. 学術大会予稿集等：

著者, 2016: 論文表題, 大会名または予稿集名. pp.12-13. (単ページの場合は.p12)

f. インターネット上の文献：

著者名, タイトル. URL (アクセス日: yyyy/mm/dd).

特に区切り記号に注意すること。

引用文献は筆頭著者の姓の ABC 順に並べる。筆頭著者が同じ論文が複数ある場合は, 以下のようにする。まず著者が 1 名の論文, 2 名の論文, 3 名以上の論文の順に並べる。共著文献の中では第 2 著者の 姓の ABC 順に並べ, さらに第 3 著者以下の姓の ABC 順に並べる。以上の ABC 順で同順の論文は, 発行年順に並べる。なお, 同じ年に同順の論文がある場合および, 同じ年に同一筆頭著者による 3 名以上の共著論文がある場合は, 引用文献リストの順に a, b, c を発行年の後に付けて, 互いに区別する。

3.2 引用

本文中での引用は, 「鈴木(2016)によれば,」または「といわれている(Suzuki, 2016)」のように行う。後者の場合, 2 つ以上の論文を同時に引用するときは半角セミコロン「;」で区切り, 発表年の古い順に引用する。3 人以上の著者を持つ論文を引用する場合, 引用論文が和文の場合は筆頭著者に「ら」, 英文の場合は筆頭著者に「et al.」を付けて引用する。

4. 提出

4.1 提出方法

投稿票および原稿の電子ファイル(PDF ファイル または MS Word ファイル)を下記宛にメールで提出する。メールタイトルは「生物と気象投稿・代表著者名」とする。

e-mail: cb(a)agrmet.jp ((a)は@。迷惑メール対策)

投稿原稿の受領日は編集委員会が原稿を受領した旨を通知する e-mail の日付とする。

4.2 投稿票

投稿票は, 「生物と気象」のウェブページ (<http://agrmet.jp/publications/cinb/>)からダウンロードし, 1 ページ目および 2 ページ目に著者名や所属・連絡先などの必要事項を入力する。3 ページ目の推薦査読者・非推薦査読者リストは必須では

ないが, 速やかな査読者選定や審査につながるの
で, 出来るだけ記入する方が望ましい。

5. 発効

本作成要領は 2017 年 1 月 1 日から適用する。